

自ら考え行動できる子に

校長 松野 正範

校庭の大きなケヤキの葉もほとんど落ちました。落葉が盛んになったことから特に多くの児童がボランティアとして落ち葉を集めてくれるすてきな姿がたくさん見られるようになってきました。また、花壇の草を抜いてくれているボランティアもいます。おかげで校庭はいつもとてもきれいです。自分で判断して行動できる児童が多いことに本当に感心させられます。

過日は、多くの方にお越しいただいた「FC岐阜サッカー教室」がありました。コロナ禍でしばらく聞いていなかった児童の歓声がありました。FC岐阜のコーチの方にはサッカーボールを手で使うなど、学年に応じた内容で実施していただけて、それぞれに楽しい時間を過ごすことができたのではないかと思います。子どもたちの姿の中で、ボールの扱いがとても上手で、新たな一面を垣間見せてくれた児童もいました。嬉しそうに運動場を駆け回る姿を見てみると、自らいろいろなスポーツに進んで挑戦してほしいと思いました。

さて、5年生が総合的な学習の時間に「米づくり」を行い、その米を売り、収益をユニセフに寄付するとして、「たすきプロジェクト」を実施しています。すでにたくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございます。この活動の中で、5年生児童の自主的な動きや発想がたくさん見られ、その行動力、発想にとっても驚いています。



雑駁な感想ばかりで恐縮ですが、中小の児童が誰かから言われて行動するのではなく、「自ら考え行動できる子」となるよう、指導していきたいと考えています。冬休みを迎え、自由になる時間も多くなるかと思いますが、家庭での生活でも自ら考えて動ける姿がたくさん見られると素敵だと思います。ご家庭でもそうした姿を認めていただけるとありがたいです。



【お知らせ】2月に「分散授業参観」を行います。



学校評価で「学校の様子がわからない」等のお声をいただきましたこと、また緊急事態宣言のため9月に予定されていた「分散参観日」を急遽中止にしたことを踏まえ、少しでもお子さんの学習する姿を見ていただきたいと考え、2月16日(水)の午前中に「分散授業参観」を予定しております。なお、感染症の状況により、実施できない場合もありますので、予めご了承ください。



公表会で学習の成果を発揮しました！

校長 松野 正範

11月24日(水)は、本校、公表会でした。本来であれば、保護者、地域の皆様にも子どもたちの学習の様子をご覧いただく機会ですが、今年は、あいにく多くの皆様にご覧いただくことができませんでした。子どもたちは、それぞれの学級でこんな姿で学習したいという思いをもって授業に臨んでいます。「こういう授業をみんなと創り上げたい」「そのためには、自分はこういう姿を目指そう」



という強い願いをもって取り組むことで、集団としての成長があり、学習成果も上がるようになります。自分たちの学習の様子を他の学級、学校の先生などに見てもらうことは、願いに向けてのチェックポイントになります。子どもたちは、公表会に向けて各学級で取り組みを工夫して頑張ってきました。例えば、ある学年は、仲間の発言を繋げながら考えを深めることに取り組んでいました。そうした具体的な取組の成果を「公表会」という学習発表の場で子どもたちは実感することができたと思います。「〇〇さんの意見と同じで、私も～と考えます。」「私の意見は、少し違って～」と自分の考えを基に仲間の意見と比べて自分の考えを発表する子どもたちの姿が多くみられました。

「公表会」という発表の場を通し、どの学級も確かな手ごたえを感じて公表会を終えることができました。

～全国学力・学習状況調査について～

本年、5月27日に現6年生児童を対象に実施された全国学力・学習状況調査において、本校の結果の概要は、以下のようでした。

◆国語・・・岐阜県平均、全国平均共にかなり上回っています。

よく身に付いていること

- 漢字を文の中で正しく使うこと
- 文章の中で主語と述語の関係をとらえること
- 目的や意図に応じて資料を使って話したり、理由を明確にして書き表したりすること

今後の課題

- 目的に応じて話す内容を構成することや文中で修飾と被修飾の関係を捉えること
- 今後の指導において、相手意識、目的意識をもった言語活動を多く実施し、目的に応じた資料の活用を含めて指導したいと考えています。

◆算数・・・岐阜県平均、全国平均共に上回っています。

よく身に付いていること

- 複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方、棒グラフや帯グラフの読み取り等

今後の課題

- 目的に応じてどのようにデータを収集すればよいか等のデータの活用や速さを求める除法の商の意味、商が1より小さくなる場面での除法の式、計算
- 今後の指導において、根拠を問うことを大切にしたり、解釈・説明の場面を多く設定したりしたいと考えています。



1冊でも多く本を読む子に！

校長 松野 正範

教室では、ごんぎつね、くじらぐもなどの読み物教材の学習が行われています。校庭の芝は、その青さを失ってきています。秋、と言えば、「読書」です。

先日、市内某小学校のビブリオバトルの記事が新聞に掲載されていましたが、本校でも5年生、6年生がビブリオバトルを実施しました。バトルというと戦いを連想しますが、おすすめの図書を紹介し合うという趣旨のものです。どの子の本の紹介を見てもしっかりと紹介が書かれていることに感心しました。本校でも読み聞かせのボランティアの方にご協力いただきながら、読書を奨励しています。



先日、各学年の貸し出し冊数について調べたところ、群を抜いて多かったのは、6年生でした。次に5年生、1年生という様子です。全校で一番多く本を借りた児童は、4月から88冊、本を借りています。これは、学校の図書館の貸し出し冊数の統計なので、家庭を含めた読書量では、もっと多い児童がいるかも知れません。図書館の本で子どもたちに一番人気なのが「学校で教えてくれない大切なこと」のシリーズの本です。漫画なのですが、例えば、「カッコよくなりしたい」「夢のかなえ方」などの子どもたちの興味のある内容が書かれた本です。いろいろな物語の本も多く読まれています。



読書をすることは、最近注目されている力、非認知能力（テストなどの数字では現われない力：自尊心、自己肯定感、自立心など）を伸ばすとも言われています。非認知能力に対して、認知能力というものは、テストの数字で現れる力ですが、こちらも読書によって伸びるそうです。しばらくは、過ごしやすい気候の中、子どもたちにはどんどん本を読んでほしいと思っています。ご家庭でも読書のことを話題にしていただけるとよいと思います。

学び合う子
心豊かな子
元気な子

中小学校だより

瑞穂市立中小学校だより
No. 6
令和3年9月22日

デジタルを活用できる子どもに

校長 松野 正範

日ごとに涼しくなり、曼殊沙華、柿の実等、秋を五感で感じる季節となりました。子どもたちは、学校でのペースを取り戻し、元気な声が響いています。一方、給食は黙食で感染予防を一番実感する時間帯となります。学校生活全般で、子どもたちの感染防止に対する意識が、薄れることのないよう、常に気を付けています。

先日、iPadの今後の活用について文書が配付されました。学校では、子どもたちが様々な場面でiPadの活用をし、操作に徐々に慣れてきているように思います。iPadの画面を教室の電子黒板に映し、それを基に発表をしている姿も見られます。また、朝の会等でiPadのテレビ会議システムを使う練習もし始めました。



実際、現在は、対面で授業ができていますが、今後のコロナ感染状況によっては、オンラインで授業が必要になるかも知れません。そうしたときに、子どもたち自身でiPadを操作できる必要があります。操作に慣れておく必要があります。無論、学校での授業やその他の活動にも活用をしていきます。インターネットで何でもコピーペーストしてしまいがちですが、クリエイティブな活用ができるようになるとよいと思っています。

デジタル機器、通信ネットワークの発達、整備により、便利なことは、増えてきました。しかし、ご承知のようにそれに伴う弊害も子どもたちに出てきているのも事実です。SNS等による誹謗中傷、間違った情報の拡散等。こうしたことは、子どもたちのいじめにつながりかねない危険性をはらんでいます。デジタル機器の便利さだけではなく、危険性も十分に認識して子どもたちの指導をしていきたいと考えています。



子どもたちは、繰り返し、インターネットの危険性についての学習をしていますが、インターネット利用のルールづくり等、ぜひ、ご家庭でもご指導をよろしくお願いいたします。

また、家庭でお気付きのことがありましたら、学校にご連絡いただくとありがたいと思います。

学び合う子
心豊かな子
元気な子

中小学校だより

瑞穂市立中小学校だより
No. 5
令和3年7月19日

夏休みこそ、『一家庭一ボランティア』を！

校長 松野 正範

毎朝、児童玄関で花のアーチを持ったあいさつボランティアの児童の皆さんが活動をしています。玄関にあいさつが響き、学校にとっても活気がでます。仲間のために活動しようと、朝から率先して活動する姿がとても素敵です。また、休み時間に草とりをしたり、ゴミを拾ったりしている児童を見ることもあります。心豊かな児童がいることに感心します。



『ボランティア』は、行っている本人にとってもよいことがたくさんあると思います。働くことの気持ちよさが活動を通して分かります。勤労観が養われるとともに思いやり、感謝など、心を耕すこともできるので、大いに推奨したいと考えています。

さて、いよいよ長い夏休みが始まります。そんな機会を活用して児童の皆さんに是非、『ボランティア』を頑張ってみてほしいと思っています。現在もコロナ感染の状況は厳しく、地域の様々な活動も縮小や中止を余儀なくされる中ですが、身近な範囲でかまわないと思います。ボランティア活動は、地域など、家の外で行う活動ばかりとは限りません。まずは、家庭の手伝いなど自分の身近なところから自ら工夫して行ってほしいと思っています。『ボランティア』は、強制するものではないですが、食わず嫌いだともったいないと思います。お子さんと相談されて、お子さんの思いや工夫を尊重しながら『ボランティア』の計画をたてていただくとよいと思います。



ときには、親子で『ボランティア』活動と一緒に参加し、そのことをご家庭で話題にさせていただくことも素敵なことだと思います。よろしくお願いします。

Let's Challenge !

1家庭1ボランティア ～誰かのために何かができる～



※「1家庭1ボランティア」は、豊かな心と行動に満ちあふれた県民風土をつくることを願って進めている県民運動です。「ボランティア」をしたら、学校から4月に配付してあります「1家庭1ボランティア」のカードに記入してください。

【お知らせ】

※9月18日（土）は、土曜授業参観です。従って、9月24日（金）は、振替休業のため学校は、お休みです。



『熱中症』に注意，時と場に応じた行動を！

校長 松野 正範

先日，6月21日は，夏至で昼が1番長い日でした。

気温が上昇するこれからの季節，心配されるのは，熱中症です。自分ではこれくらいなら我慢できていると思っても，気分が悪くなったり，時には，立ってられないくらいの状態になったりして，命に関わる重大な事態になることもあります。

本校では，『熱中症予防』のため，次のような対応をしています。

- ① 下校途中の安全な場所に給水ポイントを指定（公園等，依頼してある個人宅等）して，児童が自分ではまだ給水は必要ないと思っても，念のために水分補給をするように勧めています。



- ② 熱中症予防のため「マスクを外して登下校するよう」に指導しています。

今年度も，コロナウイルスの感染の広がりによってマスクをする生活が続き，児童も，私たち大人もなかなかマスクを外せないようになっています。しかし，気温が高く，熱中症が予想される場合は，児童には，コロナ対策より熱中症を防ぐことを優先してもらいたいと考えています。基本は，マスクを外して登下校するということです。ただし，お互いに十分に距離をとって，会話をしないことが



前提となります。この前提は，児童にとっては，簡単なことではないかも知れません。強制するのも難しく，児童にそのように話をして十分に徹底しない状況です。お互いの距離をとること，そして，強い日差しを防ぐことができるという理由で傘を活用することも提案しています。

- ③ 学校での活動の中でも体育の時間等，マスクを外し，熱中症の予防することを基本に指導を行っていきたいと考えています。

ご家庭においても熱中症予防について話題にしていただけるとありがたいと思います。よろしくお願いたします。

【お知らせ】

※平日の電話が通じる時間帯は，基本，午前7時40分～午後6時です。
ご協力をよろしくお願いいたします。



「自分の命は自分で守る術」を身に付ける

校長 松野 正範

子どもに付けるべき力を例えて言えば、「一人で自転車に乗れるようにする」ということではないかと考えています。言い換えれば、子ども達に自立して生きていくことのできる力を付けるということです。小学校の教育では、最初のうちは、補助輪を使っているのですが、徐々になしでも乗れるようにしていくことが大切です。



最近、子どもの交通事故の話聞くことが何度かありました。大変怖い話ですが、青信号で横断歩道を渡っていても車の不注意によって危険な目に遭ったという話を聞いています。学校では、子ども達には、例え青信号であっても車は止まったかなど、自分の目でしっかりと安全を確認して横断するように指導しています。そして、できるだけ、運転者と目を合わせてアイコンタクトをとることも話をしています。「自分の命を自分で守ることの術をしっかりと学んでほしい」と思っています。登下校では、見守り隊の方々をはじめ多くの方にお世話になり、守られていますが、そうしたときであってもやはり大切なことは、自分の目で安全を確認して横断することであると思います。自分で考えて適切に行動できる、補助輪（見守りの大人）なしでも身の安全を守れる子どもになるようご家庭でも話題にしていいただけるとありがたいです。

同様のことは、災害時にも言えます。「命を守る訓練」で、子ども達に最初に話すことは、「自分で考えて行動し、自分の身は自分で守る」ということです。現在、なかなか収束する気配のない新型コロナウイルス。災害と同様、この感染症に対しても、保護者や学校ができることは限界があります。だからこそ、最後は、子ども達自身が感染防止に対する知識と意識をもって「自分の身を守る」ことを指導していきたいと考えています。



学び合う子
心豊かな子
元気な子

中小学校だより

瑞穂市立中小学校だより
No. 2
令和3年4月28日

子どもの心にやる気の火をともし

校長 松野 正範

新緑の季節を迎え、校庭の芝生、木々の緑がかがやく季節となりました。校庭には、子どもたちの元気な声が響いています。

先日、学校に荷物が届きました。荷物の中身は、6年生の人数分の書籍（金子みすゞ童謡集）でした。毎年（平成10年度より）、送られてくるようですが、差出人は、東京で開業医をしてみえる浅野嘉雄氏です。浅野氏は、本校の前身である船木小学校の卒業生です。



私が赴任のご挨拶もかねてお礼の電話をしたところ、2つのことをお話しされました。

一つ目は、先生ご自身は、当時の中小学校（船木小学校）でとても信頼できる先生に出会われ、その先生の教えのおかげで、今日の自分があるので、母校に恩返しをしたいという思いでいると言われました。

二つ目には、小学生の時期は、人生にとってとても大切だということです。この時期の子どもは様々なことが吸収できる感受性豊かな時期で、そのときにどのような経験をすればその後の人生に大きく関わるのだということです。だからこそ、ご自身も感動された金子みすゞ童謡集を毎年、進級祝いとして6年生に贈っているということです。一緒に「本屋を守れ 読書とは国力（藤原正彦著）」が1冊添えられており、先生が子どもたちにたくさん本を読んでほしい、読書習慣を付けることが大切だと考えておられるということが分かりました。

私たち、中小の教職員も、当時の先生に負けないように、「子どものやる気の火をともし」のために、子どものよいところをしっかりと認め、子どもが自分に自信がもてるよう指導をしていきたいと考えています。

保護者の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。